

フレンドリーで楽しい

西仙北中と唐津中がオンライン交流

伝統行事「刈和野の大綱引き」が縁で交流が始まった大仙市と韓国唐津市との青少年交流がこのほど、大仙市刈和野の大綱交流館で開催された。両市の中学生17人がオンラインでクイズなどをして楽しんだ。

両市は平成19年8月に「友好交流に関する協定」を締結して以降、青少年や文化、スポーツ交流など様々な分野で相互交流を行ってきた。しかし、新型コロナウイルスの影響により、訪問して体験することが難しい状況から、今回Web会議システム「Zoom」を活用して交流した。

交流に参加したのは西仙北中学校の1、2年生11人と唐津中学校の1年生6人。西仙北中側は「綱引き」、「まち」、「学校生活」の3グループに分かれ、クイズを出した。また唐津中学校側は、唐津市を紹介する手作りの映像を紹介した。

質疑応答の時間は「給食で人気のメニューは」、「好きな歌手は」、「日本ではどのくらいの頻度でラーメンを食べるか」などの質問が出た。これに対し生徒達は「エッグタルトとキムチ(唐津中側)」、「BTS(西仙北中側)」、「週に2、3回(西仙北中側)」などと答えていた。

最後にお菓子交換をした。唐津中側からは日本にはまだ輸入されていない「のりスナック」と「菓菓」、西仙北中側からはドーナツ

やマドレーヌ、「いぶりがっこ」が事前に行われており、それぞれタブレットの画面上にお菓子を映し出しながら味や特徴などを紹介

していた。西仙北中学校2年で生徒会長の佐々木四温理さん(14)は「はじめて、こうした形で海外の人と交流して少し緊張したが、とてもフレンドリーで楽しく交流できた。韓国を紹介してみたと思った」と話した。

緊張したが、とてもフレンドリーで楽しく交流できた。韓国を紹介してみたと思った」と話した。



オンラインで交流



綱引きに関するクイズを出す西仙北中生



笑顔で交流する西仙北中生



お菓子を手にする両校の生徒

長野短歌会 第63回

冬陽射しウオーキングの足裏は微かな温み春遠からじ
正月を指折り数え待つばかり会いたいけれど行けぬ身なれば
二年ぶりに孫が帰省のメールあり嬉しさ隠せず日々に戻まる
前澤有作初の民間宇宙士に二百億とう億万長者
冬の空すっきりと晴れ群れをなす白鳥が飛ぶしきりに鳴いて
わが舅は日中戦争下において甲板上で地雷処置で死す
沢山の優しさに身を包まれて千両の実は殊に鮮やか
広大な更地の中に神社のみ確と残れり津波に勝ちて

大 山 京 子
畠 嶋 テ ル
九 堀 禮 子
戸 堀 登 代 子
佐 木 美 代 子
高 貝 弘 子
九 島 次 郎
高 貝 次 郎